座談会が終わった後に記念撮影（座談会は東京の観光経済新聞社本社で開催）

国の実現は、地方（地域）から

座談会

温泉地の魅力さらに高めよう

課題とアドバイス

――温泉地活性化に向けた課題は何でしょうか。また、今後取り組むべきことのアドバイスもお願いいたします。

佐藤　昔から温泉は生活の知恵で予防医学が潜在的にあります。田舎だと田植えや稲刈りが終わった後に1週間か1カ月、湯治をして次の年に備えるという、医者にかからないように自己管理をするというところで温泉がすごく利用されていました。バブル時代というかしゃかりきに働いてお金を稼ぎ、お金があれば何でもできるという意識になってしまった時代に、病気になる前に自分の体を予防するという意識がポンと抜けてしまいました。バブル時代が過ぎて、今、お金ではなく、健康であればこそ幸せを感じられるという時代になり、温泉で癒やされながら過ごす時間が貴重になるのではないでしょうか。そういう部分で温泉をもう一度再認識してもらう必要があると思います。

長野県の野沢温泉では、昔、12カ所ある共同利用の外湯が観光客に乱暴な利用をされて大変でした。お湯の神様というのは薬師如来には十二神将という子丑寅卯辰巳とそれぞれの神様がつきものです。それで河野さんという「村のホテル　住吉屋」の御主人が、12カ所の外湯を増改築した時に入り口に神様を祭って募金箱みたいなものを置いたら以前と全然違う利用のされ方になったということがありました。日本には神様への信仰心がすごくあるんですね。

今、野沢温泉に外国の方が来て喜ばれているのは宿泊施設の外に商店街があることです。それは昔、河野さんたちがスーパーもコンビニもいらないとこだわって、今も野沢にはないからです。宿の外には昔からの地元の商店街があって、まんじゅう屋もあるし、魚屋も肉屋もあって、ちょっと買い物をして部屋で楽しめるようにしています。日本的な生活の中に温泉がある。これが重要だと思います。

年々、各地の温泉旅館がグレードアップしてきて、当初はトイレ付きから始まって、風呂付き、究極は露天風呂付きというところまで来ています。そういう設備も大切ですが、できれば日本をイメージした施設であってもらいたいと思います。例えば、露天風呂も、板塀で囲ってただ青空が見えるだけのものは、私は残念だと思います。露天風呂はやはり開放感なんです。

黒川温泉に前、後藤哲也さんという方がいて、以前の看板を一切外し、白黒の看板に代えて、各宿に露天風呂がなかったので、露天風呂を造ろうと提言しました。黒川温泉の各宿の敷地はそんなに広くないので、その時に彼が何をやったかというと、露天風呂に外の開放感を出すために広葉樹の植え込みで露天風呂を囲って、植物に囲まれた中で温泉に集中させる造りにしました。そのように露天風呂は、物語のある露天風呂であってほしいと思います。

楓　本学観光まちづくり学部では「観光まちづくり」を「地域社会の現状と課題を理解し、地域を主体とした『観光と交流』を軸にしながら、活力あふれる地域の実現を目指した活動」と定義しています。地域の方にとって、より良いカタチの交流を進めましょうということで、「観光まちづくり」を積極的に進めている地域とは、一泊地として2007年登録以降しばらくはにぎわいましたが、その後、客足は遠のき、旅館の閉館などもあり、温泉旅館組合、大田市役所、観光協会は危機感を持ち続けていました。

ところが、ここ10年ぐらいで新しい動きが出てきています。一家で移住してきた方が「母親として、子供たちが自慢できる温泉津にしたい」との想いを持ち、温泉津のまちづくりに取り組み始めたので、空き家を再生し、若者が気軽に宿泊できるゲストハウスを開業し、利用者増に合わせて、レストランもオープンしました。温泉がないゲストハウス利用者は、地域内の立ち寄り湯で汗を流せます。レストランはシェフが月ごとに交代するシェアキッチン形式で、予約の取れないレストランとして今では大人気です。

移住者がさまざまなイノベーションを起こし、そこに地域の旅館経営者も参画しています。ゲストハウスは数千円で泊まれる一方、温泉旅館は1万円から1万5千円程度ですが、うまく共存していこうとの気運が生まれています。

一部の温泉旅館は昼間に喫茶コーナーを始め、新たな移住者がスパイシーカレー屋やバーも開業し、1日中温泉津で過ごせる工夫がされています。

活性化している要因の一つは、地域おこし協力隊の制度をうまく活用し、移住者と地域の方が連携して新たな活気を創出している取り組みが共通しています。

先日、機関誌の取材で伺った島根県大田市の温泉地、温泉津では、非常に興味深い取り組みが実践されています。羽田空港離陸後、温泉津着までは最短で約4時間半と時間が掛かり、関東では馴染みが薄い温泉地ですが、開湯は約1300年前と由緒ある地域です。世界遺産・石見銀山の温泉宿泊地として2007年登録以降しばらくはにぎわいましたが、その後、客足は遠のき、旅館の閉館などもあり、温泉旅館組合、大田市役所、観光協会は危機感を持ち続けていました。

ところが、ここ10年ぐらいで新しい動きが出てきています。一家で移住してきた方が「母親として、子供たちが自慢できる温泉津にしたい」との想いを持ち、温泉津のまちづくりに取り組み始めたので、空き家を再生し、若者が気軽に宿泊できるゲストハウスを開業し、利用者増に合わせて、レストランもオープンしました。温泉がないゲストハウス利用者は、地域内の立ち寄り湯で汗を流せます。レストランはシェフが月ごとに交代するシェアキッチン形式で、予約の取れないレストランとして今では大人気です。

移住者がさまざまなイノベーションを起こし、そこに地域の旅館経営者も参画しています。ゲストハウスは数千円で泊まれる一方、温泉旅館は1万円から1万5千円程度ですが、うまく共存していこうとの気運が生まれています。

一部の温泉旅館は昼間に喫茶コーナーを始め、新たな移住者がスパイシーカレー屋やバーも開業し、1日中温泉津で過ごせる工夫がされています。

活性化している要因の一つは、地域おこし協力隊の制度をうまく活用し、移住者と地域の方が連携して新たな活気を創出している取り組みが共通しています。

先日、機関誌の取材で伺った島根県大田市の温泉地、温泉津では、非常に興味深い取り組みが実践されています。羽田空港離陸後、温泉津着までは最短で約4時間半と時間が掛かり、関東では馴染みが薄い温泉地ですが、開湯は約1300年前と由緒ある地域です。世界遺産・石見銀山の温泉宿泊地として2007年登録以降しばらくはにぎわいましたが、その後、客足は遠のき、旅館の閉館などもあり、温泉旅館組合、大田市役所、観光協会は危機感を持ち続けていました。

ところが、ここ10年ぐらいで新しい動きが出てきています。一家で移住してきた方が「母親として、子供たちが自慢できる温泉津にしたい」との想いを持ち、温泉津のまちづくりに取り組み始めたので、空き家を再生し、若者が気軽に宿泊できるゲストハウスを開業し、利用者増に合わせて、レストランもオープンしました。温泉がないゲストハウス利用者は、地域内の立ち寄り湯で汗を流せます。レストランはシェフが月ごとに交代するシェアキッチン形式で、予約の取れないレストランとして今では大人気です。

移住者がさまざまなイノベーションを起こし、そこに地域の旅館経営者も参画しています。ゲストハウスは数千円で泊まれる一方、温泉旅館は1万円から1万5千円程度ですが、うまく共存していこうとの気運が生まれています。

一部の温泉旅館は昼間に喫茶コーナーを始め、新たな移住者がスパイシーカレー屋やバーも開業し、1日中温泉津で過ごせる工夫がされています。

活性化している要因の一つは、地域おこし協力隊の制度をうまく活用し、移住者と地域の方が連携して新たな活気を創出している取り組みが共通しています。

先日、機関誌の取材で伺った島根県大田市の温泉地、温泉津では、非常に興味深い取り組みが実践されています。羽田空港離陸後、温泉津着までは最短で

温泉は病気にならないための生活の知恵

佐藤氏

日本をイメージした旅館の施設造りを

地域おこし協力隊の制度をうまく活用

楓氏

移住者がイノベーション起こした温泉津

温泉地の活性化について真剣に語り合った

温泉地の活性化に必要なのは人と物

関氏

魅力を発見し、磨き上げることが重要

関　温泉地の活性化に必要なのはやはり人と物です。中心になってくれる人がいてそこに人が集まってきます。その地元の人がいなくなればよそからの人が入ってきて活性化につなげていくしかありません。かつて温泉地が発展したところには必ず佐藤さんのような偉大なカリスマの方がいらした。その方が一つ柱を立ててその周りに人が集まって温泉地ができてきたという流れがあります。今はかつての巨人たちがだんだん年老いてきていますので、現役の世代交代が起こっています。

先ほども出た露天風呂の話も、どうしても先代とは違う色を出したい、また、先代がしてきた苦労はしたくないと、一足飛びに高単価にしてハイリターンを求めるというような若い後継者が非常に増えてきています。そこはもう一度、先代の声に耳を傾けてほしいと思います。温泉地を魅力的にするためにも確実な新世代の経営者が必要であると考えています。

また少子高齢化によって日本人だけをターゲットとした宿泊経営はもう難しくなっている状況です。外国人の方は温泉で裸になるのが嫌いであるとか、そういう先入観はいったん取って、外国人の方にも日本はこういう文化であると理解してもらうような活動が業界団体としては必要ではないでしょうか。

また物については2次交通の問題があります。路線バスがなくなったり、地域に人通りがないためにタクシーも運行しなくなったり、レンタカーの数も足りないということで、温泉地に迎えたくてもアクセスがない。全部が全部、車に乗れる方ではないので各自治体や行政、国も含めて2次交通の安定整備を行ってほしいと考えています。

温泉は全て千差万別であり、一つも同じ温泉はありません。同じように各温泉地もそれぞれの歴史と文化を継承してきています。例えば佐藤さんのところの鶴の湯であれば、わらぶきの屋根の本陣に大きな乳白色の露天風呂があります。郷土料理の芋の子鍋をいろり端で食べることもできます。これは鶴の湯でなければ味わえないものなんですね。このような温泉地の魅力というのは実は気づいていないようでどこにでもあるはずです。この魅力を発見して、磨き上げてほしいと思います。

また温泉地ならではのおもてなしです。地方弁で歓迎してくれれば、遠くから来られた方は感動するものです。これは外国人でも同じで、英語が分からないから受け入れないではなく、外国の方にも同じように日本語で接してもらうようなスタッフ作りということが一つ重要です。ほんの少しの優しさがある日本人スタッフを教育するということは温泉地の発展のための一つの大きなことです。

――貴重なお話をありがとうございます。弊紙でも、温泉地の活性化につながるよう有益な情報をこれからも発信してまいります。

第36回にっぽんの温泉100選

順位	動き	昨年	温泉地	県
1	―	1	草津	群馬
2	―	2	下呂	岐阜
3	↑	4	道後	愛媛
4	↓	3	別府八湯	大分
5	↑	6	登別	北海道
6	↑	8	指宿	鹿児島
7	―	7	有馬	兵庫
8	↓	5	箱根	神奈川
9	―	9	由布院	大分
10	↑	11	城崎	兵庫
11	↑	12	黒川	熊本
12	↓	10	和倉	石川
13	↑	15	伊香保	群馬
14	↓	13	銀山	山形
15	↑	16	玉造	島根
16	↓	14	乳頭温泉郷	秋田
17	↑	20	熱海	静岡
18	―	18	奥飛騨温泉郷	岐阜
19	↑	22	十勝川	北海道
20	↑	30	蔵王	山形
21	↓	19	月岡	新潟
22	↑	40	あわら	福井
23	↑	25	嬉野	佐賀
24	↓	17	鬼怒川・川治	栃木
25	↑	33	白浜	和歌山
26	↑	38	雲仙	長崎
27	↓	24	湯の川	北海道
28	↑	35	秋保	宮城
29	↓	27	万座	群馬
30	↑	31	白骨	長野
31	↑	45	湯田中渋温泉郷	長野
32	↓	29	山中	石川
33	↓	23	霧島	鹿児島
34	↑	36	昼神	長野
35	↓	26	飛騨高山	岐阜
36	↑	79	上諏訪	長野
37	―	37	修善寺	静岡
38	↑	43	層雲峡	北海道
39	↑	41	三朝	鳥取
40	↓	32	山代	石川
41	↑	51	みなかみ18湯	群馬
42	↓	21	鳴子	宮城
43	↓	42	酸ケ湯	青森
44	↓	34	花巻温泉郷	岩手
45	↓	39	定山渓	北海道
46	↑	48	洞爺湖	北海道
47	↓	28	長良川	岐阜
48	↓	43	四万	群馬
49	↓	47	宇奈月	富山
50	↑	55	長門湯本	山口
51	↓	49	稲取	静岡
52	―	52	阿寒湖	北海道
53	↑	73	河口湖	山梨
54	↑	56	野沢	長野
55	↓	46	観音	静岡
56	↑	62	皆生	鳥取
57	↑	59	湯西川	栃木
58	↑	70	伊東	静岡
59	―	59	川湯	北海道
60	↑	70	平磯	北海道
61	↑	82	別所	長野
62	↑	70	湯河原	神奈川
63	↓	58	那須	栃木
64	↑	66	石和	山梨
65	↑	68	湯村	兵庫
66	↓	53	ウトロ	北海道
67	↑	―	美ケ原	長野
68	↑	84	こんぴら	香川
69	↑	81	洲本	兵庫
70	↓	50	塩原	栃木
71	↓	53	高湯	福島
72	↓	63	黄金崎不老ふ死	青森
73	↑	77	かみのやま	山形
74	↓	73	東山	福島
75	↑	―	榊原	三重
76	↑	99	南紀勝浦	和歌山
77	↓	59	玉川	秋田
	↑	98	西山	山梨
79	↓	64	山鹿・平山	熊本
80	↑	89	ニセコ温泉郷	北海道
81	↑	―	鳥羽温泉郷	三重
82	↑	―	湯田	山口
83	↑	92	日光湯元	栃木
84	―	84	阿蘇温泉郷	熊本
85	↓	56	母畑	福島
86	↑	―	龍神	和歌山
87	↑	95	長湯	大分
88	↑	―	熊野本宮温泉郷	和歌山
89	↑	―	赤湯	山形
90	↑	97	磐梯熱海	福島
	↑	92	下田	静岡
92	↓	65	あつみ	山形
93	↓	79	おごと	滋賀
94	↓	76	祖谷	徳島
95	↑	―	支笏湖	北海道
96	↓	69	原鶴	福岡
97	↓	75	大雪高原	北海道
98	↑	―	杖立	熊本
	↓	84	愛山渓	北海道
100	↓	66	瀬波	新潟